

## 電気洗たく機による綿布の損傷について

福岡女子大 ○森川 義子  
平松 園江

1. おむつの布を損傷少なく洗たくする方法と、損傷をできるだけ少なくする布を作る条件の1, 2を明らかにするため今回は電気洗濯機による綿布の損傷を調べた。洗濯機による繰返し洗濯で、布は薄く、硬く、吸水悪く、引張強度、重量も減る等の損傷があるように感じられるから、引張強度の変化と共に洗濯時間による重量減の変化を把握するよう努めた。洗濯による布の重さの減少を測定する方法の条件を明らかにすれば、洗濯機による布の損傷判定としては意義があると考え、方法の検討も行なった。

2. 洗濯機はN社製渦巻式N-280型、供試布は平織とバースアイ織各々の糸密度2種ずつ計4種、洗濯条件は洗剤なし、浴比1:20液温 $28^{\circ}\text{C} \pm 3$ 、機械を1時間回転させ20分休止後また回転を開始、これを6~7回繰返した後自然乾燥し、これを繰返し25, 50, 75, 100時間とした。布の重量は糊抜き原布を絶乾状態で秤量、洗濯後それぞれ絶乾状態で計測した。更にこの大試料より $5 \times 40\text{cm}$ の布の糸密度補正を行なった試料15本をとり各試料について重量と引張強度を測定した。

3. 洗濯時間による布重量の減少は、大試料小試料とも顕著であり、大試料の方が減量が少ない。両耳縫目周辺が巻きこまれ摩耗してないためと思われる。組織ではバースアイ織の方が損耗が大きく、また粗いものが損耗が大きい。重量減を測定する時は大試料と小試料をとるのは目的によって決めるがよい。